

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	アソビシロ
役職	
氏名	田尻泰崇
着任日	令和6年6月1日

活動月	令和7年6月（着任13ヶ月）
主な活動	1. 川辺高校文化祭 2. 地域おこし協力隊交流会 3. 東京説明会

1 川辺高校文化祭

6月7日、川辺高校の文化祭が開催されました。生徒会 SNS 部へ当日の撮影指導や会場設営の準備から参加しました。川辺高校の文化祭の特色としては校外の地域施設を借用して行われるというもので、校内で完結する文化祭と比べると、とても新鮮な経験になると思います。また地域住民の協力によって飲食店や雑貨屋の出店もあり、マルシェのような賑やかな空間が広がっていました。

当日は朝から撮影に入り、SNS 部の撮影指導と並行しながら文化祭全体を収録することに専念しました。地域の方々が協力して地域施設で行われる文化祭は校舎とは違う非日常的な特別な体験になりますし協力的な地域性を感じられる良い機会になると思います。これは通常の文化祭とは異なる独特な空気のある印象でした。学生たちも自分たちで決めた発表を一生懸命に取り組みながら、とてもいい雰囲気の仕事だったと思います。



2.地域おこし協力隊交流会

6月13日、鹿屋の鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターにて青年海外協力隊の方々との交流会が開催されました。どのようにしてコミュニティが形成されて国という単位となり、自給自足の協力体制を作り上げていくか体験するゲームが行われました。それぞれのグループにある条件が異なっており、交渉しあいながら同盟を組んだり、互いのグループが安定し合える状況に調整を計って進行していきました。青年海外協力隊のスタッフからは他国での経験談もゲームでの対応に反映されており、実際の国の対応などを間接的に経験することができる内容となっていました。ゲーム上での感覚で冷たいと感じたため、実際に行くことを考えると孤独感と人の冷たさに苛まれると思います。海外で活躍される協力隊の方々のメンタルの強さに驚いたことと同時に、国内で活動する協力隊も同じような経験をしているなと気づきました。国外も国内も共通して冷たい人は冷たいので、どのように自分を保って冷静に良い方向へ維持していくかという思考が大事だと再認識しました。普段交流できないメンバーとのコミュニケーションは新鮮でしたし、新たな価値観を見出すことでもきたので有意義な研修となりました。



3. 東京説明会

6月22日、23日に東京流通センターの展示会場にて「地域みらい留学」の対面説明会が行われました。北は北海道から南は屋久島まで全国から高校が集まり、自分たちの高校の魅力を存分に説明するイベントとなりました。南九州市からは昨年と同様に川辺高校と薩南工業高校の2校が参戦し、東京会場は初参加となります。また、今年は実際に人員募集となりますので前回よりも実践的に人を集めることを念頭においての参加となります。今まで撮影してきた素材や地域の取材を元に資料を作成し、動画を流しながらの説明でした。結果的に両校とも8名ずつの来場者があり、どこが説明が足りていないか、改善点も明確に見えてきました。

また今回の説明会で印象的だったのは隣ブースに地域みらい留学の卒業生がきており、実際に留学してみて大変だったことやどんなサポートが必要だったのかなどを聞くことができました。この情報を元に実際の留学生たちをしっかりとサポートしていかなければならないと改めて強く実感しました。遠方から親元を離れて知らない場所で生活することは楽しみと不安で一杯になるので、その部分をしっかりとケアできる人員が必要になります。話を聞いてくれるだけでも心のバランスが全く違うという意見もあったので市役所、地域、学校の友達のどこかに頼れる人ができればいいと思います。その選択肢が多くある方が相談しやすい環境を作ることになると思うので、優先的に考えていきます。

次は7月に行われる大阪の説明会でここまでの資料改訂や説明内容を打ち合わせてブラッシュアップを行います。まずは地域の方と協力して作成した充実の体験入学プログラムにきてもらえるように尽力します。

地域おこし協力隊活動報告書

